

受賞者は、段ボール・プラ段・パルプモールド（古紙を水で溶かし、金網で抄き上げたあと乾燥してできる紙成形品）等、エコロジーな素材を使った梱包材、緩衝材等の包装資材全般を製造販売している。米箱、日本酒の化粧箱、錦鯉出荷箱、花火玉皮・筒蓋等、地場産業に関わりの深い製品も製造している。パルプモールドによる花火玉皮の製作は日本を含め、世界でも唯一の取組みである。地上落下後に自然に還りやすいという特徴に加え、品質も評価をもらい、全国販売している。段ボールパレットや重量包装等、顧客がリサイクルしやすい廃棄シーンを考慮した製品設計や、脱プラ製品の開発等を進め、幅広い分野で環境保全に取り組んでいる。

包装資材は多くが使用後に不要となるため、同社は 2000 年から環境保全活動を始めて、2001 年に県内の同業者では初の ISO14001 の認証を取得した。

以降、溶剤を使用した製版作業の外注化、加工残の古紙を活用したパルプモールド製品の開発、環境タイプへのインク・糊の切り替え、インク回収率の高い印刷機の導入、半自動印版洗浄機の導入等を行い、2011 年には 95.1%だったリサイクル率が、2012 年には 97.5%に、2013 年には 98.2%にまで上昇した。

最終的には埋め立て処理が必要なインク・糊の汚泥が残り、リサイクル率 99%の壁がなかなか越えられなかったが、汚泥排出量削減のための取組みを実施し、2018 年によく 99.2%を達成し、実質ゼロエミッションとなった。

同社では、廃棄シーンを考慮したリサイクルしやすい金属製のステッチレス化や、段ボールでの緩衝材の提案等、ユーザーの使用シーン・使用後をイメージした製品設計を心掛けてきた。

また、花火玉皮に代表されるような、顧客ニーズを満たした、3Rを配慮した製品の開発を行ってきた。リユースを目的としたプラスチック段ボールを使用する場合も単一素材にこだわり、オール PP 素材での設計や、リベットレスの提案を行ってきた。

近年では輸出業者を中心に段ボールパレットのニーズも高まってきており、木パレットからの切り替えを進めるなど、これからも環境に優しい製品の開発に取り組んでいこうとしている。



写真 1 パルプモールド製法による花火玉皮

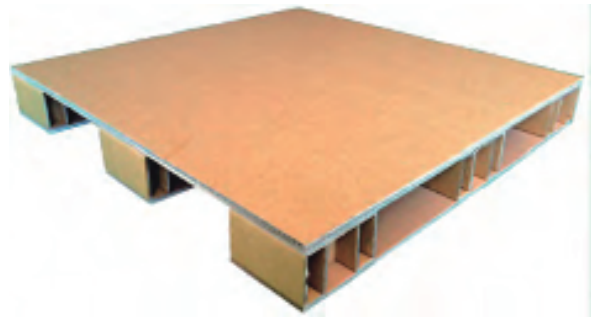


写真 2 段ボールパレット（規格品）